

令和5年度第3回文化財保護委員会抄録

1 委員長あいさつ

2 協議事項

(1) 令和6年度安城市郷土史出版奨励事業補助金について

【説明】(事務局)

・古井町史発行委員会作成の「古井の歴史案内」の原稿が出そろったので、安城市郷土史出版奨励事業補助金交付要綱の基準に従って審査いただきたい。本日ご欠席の野本委員からは、写真や図が不鮮明で読みづらいところがある。馬祭りの行事や法蔵寺の西川地蔵のところを詳しく説明してほしいという意見をいただいた。

【質疑応答】(事務局・委員)

- ・補助事業として内容に問題はない。(委員)
- ・発掘や郷土の歴史への興味を若い世代に継承していけるとよい。(委員)
- ・「古井町史」という題名ではないのか。(委員)
 - 「古井の歴史案内」は各戸に無料配布され、補助金の対象とする。これとは別に専門的な内容を記したものであるとして「古井町史」を作成する。希望者に有料で販売するため、今回の補助金の対象外である。(事務局)
- ・誤字や誤表記があるので、適切に修正してほしい。専門的な目線で見ると、語句や表現を修正すべき点がある。(委員)
- ・引用や転載には適切に対応し、人名や専門用語にはふりがなを付けてほしい。(委員)
 - 転載は4月以降に許可を取ると聞いている。(事務局)
- ・原稿ごとに記載内容の深さを統一し、適切な編集体制で作成してほしい。(委員)
- ・細井信治さんが土器を集めた自分の姿を描いてもらったという掛け軸に作者である、稲垣錦荘さんの名前を入れてほしい。(委員)

3 報告事項

(1) (仮称) 本證寺史跡公園の整備状況について

【説明】(事務局)

- ・令和5年度の工事は、313本の樹木を伐採し、田んぼの耕作土を除去した。
- ・令和6年度の工事は、壊れた土塁の修復、駐車場の整備、外堀の位置に園路を整備する。内堀に溜まったヘドロの除去のため、試し浚渫を数か所で行う。

【意見】(委員)

- ・本證寺の建造物の保存・修理にも莫大な費用がかかるということを承知しておいてほしい。

(2) 重要文化財 聖徳太子絵伝・善光寺如来絵伝の修理状況について

【説明】(事務局)

- ・令和4年度から10年計画で14幅の絵伝を修理する。肌裏紙の除去が今年度で終了した。令和7年

度までに4幅の修理が完了する予定。

（３）旧神谷家主屋の国登録文化財建造物への答申について

【説明】（事務局）

- ・文化審議会から答申が出て、官報への掲載後に正式に登録文化財になる。この建物は、玄関土間と座敷である角屋、一段高くなった仏間を含む和室が6間ある。（仮称）本證寺史跡公園の中にあり、活用に向けて検討していく。

【意見】（委員）

- ・史跡本證寺とどのように関連付けるか、誰が何をする施設にするかというソフトの面も検討してほしい。
- ・史跡本證寺境内整備検討会議において、「神谷家の活用をこの会議で議論すべきなのか」という意見が出たが、どこの場で協議するのか。また、ガイダンス施設という使い方でよいのか、トイレが必要なのかなど、史跡全体の中で議論していくべき。
- ・登録文化財の本来の価値を生かし、当時の古民家の生活がわかるような活用を市で主体的に考えてほしい。

（４）県指定天然記念物「永安寺の雲竜の松」の支柱の交換について

【説明】（事務局）

- ・松の枝を支えるための支柱が腐っていたが、費用負担のこともあり、支柱の交換が課題になっていた。今回、地元有志の方のご協力により、支柱の交換を実施した。

【質疑応答】（事務局・委員）

- ・所有者の費用負担の問題は、他の文化財でもあるケースだと思う。今回、有志の方にご協力いただくことになった経緯を教えてください。（委員）

→地域の文化財に興味をお持ちで、松の支柱のことを心配されていた。

日常管理は檀家総代の方がされているが、高額な費用負担は難しい。今後の管理費の確保のためには、地域で保存会を立ち上げる、クラウドファンディングなどが考えられるが進んでいない。（事務局）

→文化財への関心を救い上げるような仕掛けを考えないと、今回のように偶然に頼るしかなくなる。

文化財管理調査の際には、そのような観点で聞き取りを行うとよい。（委員）

その他

【意見】（委員）

- ・塚越古墳の現地見学会について、発掘する区画（トレンチ）を決めた理由を含めて説明するとわかりやすいと感じた。
- ・本證寺だけではなく、古井町や桜井町にある桜井古墳群の整備や活用も検討してほしい。